

元患者から抗がん剤で苦しむ女性へ

希望とかつらのリレー

抗がん剤の副作用による脱毛に悩む女性たちを支援しようと、福岡市のNPO法人「ウィッグリング・ジャパン」が、女性のがん患者に無償でかつらを貸し出す活動を続けている。かつらの提供者の多くも、かつてがんと闘った女性たち。元患者と患者とをつなげる活動を始めて2年。利用者は北海道から沖縄まで約300人になる。

【金秀蓮】

福岡のNPO法人

「かつらを手にしたる日々。おしゃれにも患者さんは、がんと闘った人から勇気や希望、元気を一緒に受け取っているんです」。若者や買い物客でにぎわう同市中央区天神の一角にあるウィッグリング・ジャパンの事務所に、代表の上田あい子さん(37)が穏やかな笑顔を見せた。

「自分に何かできないかな。少しでも救いになれば」と、がんを克服した知人から借りたかつらを手渡した。完治した人の存在を知り、幼なじみは明るさを取り戻し、今は社会復帰している。

活動のきっかけは2年前の春。幼なじみに乳がんが見つかった。告知を受け、入院や治療方針などさまざまな決断を迫られ、苦悩す

2年で300人 無償貸し出し



がん患者のためにかつらを無償で貸しているNPO代表の上田あいさん(左)と満安さん(右) 福岡市中央区天神で野田武撮影

の提供を呼びかける。まった。新品のかつらと、元患者を中心に全10万個前後に集まる。患者にとっては経

いが闘病生活を支える力になると、上田さんは考える。

サロンで直接患者の相談を受けるチーフアドバイザーの満安さん(66)も30代でがんを発病し、2度の再発を乗り越えた。経験者として「がんになった切なさも悔しさも分かる」と言う。一方、かつらを提供してくれた元患者には「再発を恐れ、なかなか手放せなかったものと決別してくれた」と感謝する。

帽子をかぶり、下を向いてサロンを訪れた患者が、笑顔で帰って行く。「私たちの存在で患者さんが元気に力強く羽ばたいてくれたら」と満安さん。上田さんは「必要としてくれる人が一人でもいる限り、細く長く続けていきます」。

サロンは毎週月曜と第4土曜で、要予約。かつらの貸し出し期間は1年。利用には会員登録が必要で、入会費2100円、年会費3150円。問い合わせは092・725・6623。